

ベルマーク新聞 8月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

106人で仕分け、「共に生きる」を学ぶ

 宮城・宮城学院高の1年生4クラス

㊤みんなでピース！いい笑顔です
 ㊦㊧各クラスから2人ずつ選出される宗教委員が運動の概要を説明
 ㊨㊩集中して仕分けに取り組んでいることが伝わってきます

仙台市青葉区にある宮城学院高等学校(平林健校長、生徒363人)の1年生のうち106人が、ベルマークの仕分け作業にボランティアとして取り組みました。

宮城学院高はキリスト教系の女子校で、年間を通して宗教行事があります。そのうちのひとつ、毎年5月に設けられる「キリスト教教育週間」の中に、丸一日かけて特別プログラムを行う「全日行事」があります。

その「全日行事」の学年別プログラムとして今回企画されたのが、ベルマークの仕分けです。発案者は宗教主事の久保直樹先生。ボランティアとしてベルマークを仕分けすることは、『共に生きる』という今回の全日行事の主題を具体的に経験できる活動だと考えたそうです。

使える時間は160分。先生は授業の進め方について模索を続け、4月下旬からは行事を担当する各クラス選出の宗教委員8人とも打ち合わせを重ねました。

5月25日、全日行事が始まりました。仕分けは4クラスで実施されます。まず財団が公開している動画「未来を育むベルマーク」を前もって観ていた宗教委員が、自分たちで作成したスライドをもとに、運動の概要を説明しました。

概要をつかんだあとは、いよいよ作業です。生徒1人ずつにジッパー付きの袋に入ったベルマークが配られました。それを黙々と仕分けしていきます。次にグループを組んで、カップやクリップを使いながらマークをまとめていきます。その結果、クラスごとの集計までを時間内

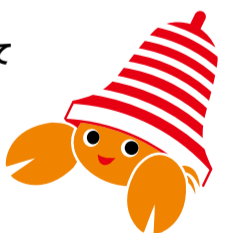
に終わることが出来ました。後日、大久保先生と学年担当の佐藤友久先生が全てのマークを合わせる集計作業を済ませ、財団に送りました。

106人で仕分けたマークは合計4万3896.9点。作業の指示を出した宗教委員の皆さんは、実は準備段階では不安だったそうです。なぜなら、高校生活は始まったばかりで、全員で一緒に何かをする経験も、クラスメイトと話すきっかけも少なかったからです。クラスの様子を見ていた高1学年宗教委員長の瀧澤色春さんは、委員以外の方が臨機応変に声掛けをしてくれる姿や、終わっていない人を率先して手伝う友達の姿に気がきました。「マーク仕分けが人と話すきっかけとなり、クラスメイトと打ち解ける

良い機会になりました」と話してくれました。

仕分けされたマークは、災害被災校などへの支援に活用されます。ベルマークの仕分け作業は、マークを寄せてくれた方々の思いを形にしていくと同時に、支援を必要とする子どもたちと「共に生きる」ことにもつながります。宮城学院高の皆さんがそれを体感することができたなら、これほど嬉しいことはありません。

仕分けしてくれて
ありがとう!!



昨年度に集めた113万点を財団へ寄贈

 あいおいニッセイ同和損害保険

協賛会社のあいおいニッセイ同和損害保険(ベルマーク番号92)が、自社などで集めたベルマーク約113万点を財団に寄贈することとなり、7月13日に贈呈式がありました。コロナ禍で東京都に4度目の緊急事態宣言が出された直後だったため、同社広報部サステナビリティ推進室とベルマーク財団をオンラインでつないで実施されました。財団から中継するリモートの贈呈式は今回が初めてです。

式では、あいおいニッセイ同和損保の秋山昌子サステナビリティ推進室長が目録を読み上げました。内訳はベ

ルマーク95万1500点と、カートリッジ分17万7155点。これらは2020年度に同社各部署や代理店、取引先、個人のお客さまなどの協力を得て集めたものです。「今年こそ収集1番を目指して頑張るぞと、気合いを入れて取り組んでいる支店もあります」と秋山室長。

あいおいニッセイ同和損保は過去10年間、自らベルマーク収集の取り組みを進め、その累計は約2000万点にもなります。今までは同社で寄贈先を選んできましたが、今回からはすべて「寄贈マーク」として財団が受け取り、支援に役立てることになりました。



リモートで実施された贈呈式。寄贈マークを抱える財団の小野高道常務理事(左)と、目録を持つあいおいニッセイ同和損保広報部サステナビリティ推進室の秋山昌子室長